大丸有SDGs ACT5

アクションレポート 2024

CONTENTS

目次／実行委員会メンバー …… 02
ご挨拶 …… 03
概要 …… 04
アクション一覧 …… 05
今年度サマリー …… 06
ピックアップトピックス …… 07
ACT5 アクション事例
ACT1　サステナブルフード …… 08
ACT2　環境 …… 10
ACT3　ひとと社会のWELL …… 12
ACT4　ダイバーシティ＆インクルージョン …… 14
ACT5　コミュニケーション …… 16
丸の内ポイントアプリ …… 18
インパクト調査 …… 19
丸の内ポイントアプリ　ご協力店舗マップ …… 22
メディア掲載一覧 …… 24
有識者からのコメント …… 25
参加者からの声 …… 26

実行委員会

役職等は2025年2月時点

実行委員長

長沼 文六
三菱地所株式会社 代表執行役 執行役専務

副委員長

土田 智子
農林中央金庫 常務執行役員

内山 清行
株式会社日本経済新聞社 常務取締役

委員(順不同)

村木 美貴
千葉大学大学院 工学研究院
教授

内海 智江
農林中央金庫 常務執行役員
女性活躍・ダイバーシティ推進責任者

後藤 不二巳
農林中央金庫
食農法人営業本部 営業第二部長

酒井 耕一
株式会社日経BP
総合研究所 ESGフェロー

菊川 嘉彦
丸の内熱供給株式会社
専務執行役員

狩野 洋平
大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 都市機能部会長

竹内 和也
大丸有環境共生型
まちづくり推進協会 専務理事

服部 謙一
三菱地所株式会社
エリアマネジメント企画部長

井上 成
三菱地所株式会社
エリアマネジメント企画部担当部長

大谷 典之
大丸有エリアマネジメント協会
事務局長

近藤 慶太
株式会社東京国際フォーラム
取締役（事業推進担当）

監事

吾田 鉄司
三菱地所株式会社 サステナビリティ推進部長

大丸有SDGs ACT5実行委員会

三菱地所
NIKKEI
大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくり協議会
ECOZZERIA
TOKYO INTERNATIONAL FORUM 東京国際フォーラム
農林中央金庫 NORINCHUKIN
日経BP
Ligare 大丸有エリアマネジメント協会 OMY Area Management Association
街と歩む、街を支える。 丸の内熱供給株式会社

ご挨拶

大丸有SDGs ACT5　実行委員長
長沼 文六
三菱地所株式会社
代表執行役 執行役専務

複雑化する時代のニーズを捉え、より一層の協働を生み出しながら具体的かつ本質的なインパクトの創出を目指します

2024年は、元旦に能登半島地震が発災し、我が国は被災から始まる1年となりました。その後も豪雨や記録的な猛暑等、温暖化の影響を感じさせる事象が続き、自然災害は我々の生活から切り離して考えられない状況にあります。

世界では年末にCOP29が開催され、気温上昇を1.5度に抑えるために、各国が自ら掲げるアクションプランの確実な実施が重要との認識が改めて示されました。我が国においても2050年カーボンニュートラルに向けた2030年度目標（2013年度比GHG46%減）が打ち出されており、取り組みの加速が強く求められております。

世界では環境問題以外にも、戦争の長期化や戦禍の飛び火により、人命の犠牲はもとより、エネルギーや食糧不足、難民問題等、様々な危機的状況が発生しており、今後、これらが我が国社会へも深刻な影響を及ぼすことが危惧されております。

大丸有SDGsACT5は、この5年間、様々な企業や団体との連携の輪を着実に拡げて参りましたが、今後益々複雑化して行く世界や我が国の状況を見据え、関係者間に於いて、より一層の協働を生み出していく必要性を感じております。

2030年に向けて折り返し地点にいる今、より具体的かつ本質的なインパクトやその連鎖を創出すべく、大丸有エリアを起点に様々な仕掛けを創って参ります。

大丸有SDGs ACT5　副委員長
土田 智子
農林中央金庫 常務執行役員

大丸有SDGs ACT5をプラットフォームに、サステナビリティの実現に向けて取組んでいきます

昨年は、集中豪雨や全国的な猛暑等、各地で異常気象に見舞われました。農林水産業においても、米や野菜の収量減等に繋がっており、気候変動の影響を痛感する1年でした。

農林水産業を基盤とする農林中央金庫では、中期ビジョンとして定めた「2030年のありたい姿」5つの中で、「協同組織と金融の力で、持続可能な環境・社会・経済の実現に向けて、ポジティブインパクトを創出し続けていたい」というサステナビリティにかかる姿を一番目に置いています。

具体的には「2050年ネットゼロ」を掲げ、当金庫自身はもちろん、投融資先のお客様のGHG排出削減を促進しております。また生物多様性・自然資本の面においても、お客様のTNFD対応支援等、様々な取組みを進めております。

大丸有SDGs ACT5活動5年目は、食のサステナビリティを考えるイベント「SUSTABLE」において、循環・脱炭素・生物多様性について学び・体験する機会の提供、稲刈り体験を通じて農山村の持続可能な社会を考えるイベント開催、また農福連携を通じたダイバーシティ＆インクルージョンの推進等、多岐にわたるアクションをパートナー企業とともに展開することができました。

引き続き、大丸有SDGs ACT5を社会課題を解決していくパートナーシップのプラットフォームと捉え、サステナビリティの実現に向けて、活動の輪を広げて参ります。

大丸有 × SDGs ACT5

概 要

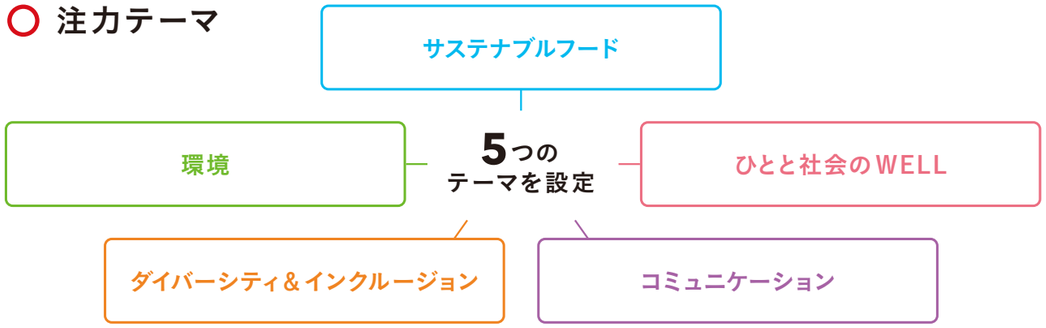
大丸有SDGs ACT5 とは

東京駅前、大手町・丸の内・有楽町地区（以下、「大丸有エリア」）を起点として、大丸有エリア内外の企業・団体が連携し、SDGs達成に向けた活動を推進するプロジェクトとして、2020年に始動しました。

総合デベロッパーである三菱地所、地域の一次生産者を支える金融機関である農林中央金庫、日本を代表する経済メディアである日本経済新聞社ら複数の企業、団体が実行委員会を組成し、お互いの持つ様々なリソースを持ち寄り、毎年5月から11月までの約7ヶ月間をコア期間として、具体的なアクションの創出を目指して活動しています。

2020年より毎年様々なステークホルダーや多くの地域と連携を図っており、今年度は約70社と連携しながら、54個のアクションを創出。参加者は約28,000人に上り、活動開始から累計で約10万人となりました。定番となった企画についても時流の変化を捉えながら内容の深化を続けると共に、新たな企画にも精力的に取り組んでいます。

注力テーマ



SDGsに含まれる広範なテーマの中から、実行委員会企業内で注力する重要テーマを設定。

特徴

1 コミュニティの形成

大丸有エリア内外の企業・団体が個社の枠を超えて協業し、大丸有エリアを起点とした社会課題解決型のコミュニティが形成されています。

2 リソースの繋がり

各社の持つリソースが有機的に繋がることで、個社ではなしえない幅広いテーマに対して探求・PJ化が進んでいます。

3 アプリの活用

アプリを活動全般の基盤とすることで、来街者・就業者の行動変容を促進。取得したデータの分析を通じた1、2の加速度的成長を目指します。

アクション一覧

ACT 1 サステナブルフード

1-1 サステナブルフード”を購入して丸の内ポイントを獲得しよう！
1-2 「SUSTABLE（サステーブル）～未来を変えるひとくち～2024」
第1回 循環を味わう。麦芽粕がつなぐ水産・畜産・農業の輪 ～沖縄が目指す産学連携による食のサーキュラーエコノミー～
第2回 気候変動を逆転させる。脱炭素につながる海と山の幸 ～バイオ炭による土壌改善、昆布養殖による海の再生～
第3回 生物多様性を取り戻す。ネイチャーポジティブな日本食 ～コウノトリの野生復帰を実現したコウノトリ育む農法、循環する但馬牛システム～
1-3 ジビエを食べて応援SDGs！「国産ジビエ料理フェア」
1-4 大丸有のプロ料理人向け 「ジビエを食べて応援SDGs！ジビエ料理セミナー」
1-5 サステナブル 一汁一菜ランチフェア

ACT 2 環境

2-1 マイボトルを持って大丸有に行こう！
2-2 マイバッグを持って大丸有でお買い物をしよう！
2-3 お気に入りのジュエリーポーチ・ボックスで、限りある資源を大切にしよう
2-4 マイお箸を持って、常盤橋タワーの“みそスープBAR”に行こう！！
2-5 大丸有アパレル店舗での衣類回収に参加しよう！
2-6 鞄類のケア・修理・回収 マザーハウスのトータルサービス「ソーシャルビンテージ」
2-7 大丸有のコスメ店舗で空き容器回収に参加しよう！
2-8 鞄類を大事に使い続けよう。ゼロハリバートンのリペアサービス
2-9 衣類を大事に使い続けよう。パタゴニア衣類修理サービス
2-10 衣類を大事に使い続けよう。ゴールドウイングループのリペアサービス
2-11 ショッパーから資源節約に貢献！ビームスで取り組むSDGs
2-12 丸ビル4階「Be Organic」で“人にも地球にもやさしい”お買い物を！
2-13 エコバッグの循環プロジェクト
2-14 コスメキッチンで“人にも環境にもやさしい”お買い物を！
2-15 皇居外苑濠での泥と生きもの採取 ～濠プロジェクト～
2-16 【海の未来を子供たちとつくる】 サンゴの餌やり体験、実験教室「サンゴの好きを探し出せ！」
2-17 アイスクリームで気候変動に立ち向かう？ 生活者・企業人として私たち一人ひとりにできること
2-18 食農体験ラボ／とうもろこしもぎ取り体験＆マルシェ ～皇居外苑濠の水草（菱）を堆肥にした有機野菜～
2-19 カードで学ぶサーキュラーデザイン体験ワークショップ
2-20 空と土プロジェクト 山梨県日帰り稲刈り体験ツアー ～サステナブルな「農業」を楽しむ～
2-21 丸茶（マルカフェ）：小さな魚を食べよう

ACT 3 ひとと社会のWELL

3-1 第16回丸の内ラジオ体操
3-2 下田MIRAIカレッジ・プロジェクト
3-3 丸の内／仲通り周辺でプロギング ～走って健康に、拾ってエコに～
3-4 第17回丸の内ラジオ体操
3-5 Women’s Lesson Walk × MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと。美しく健康的な歩き方。

ACT 4 ダイバーシティ＆インクルージョン

4-1 【E&Jラボ特別企画】東京レインボープライド2024見学ツアー
4-2 【E&Jラボ2024】第1回ここでしか聞けない！人事が気になる実践的事例トーク「合理的配慮への対応 何からすればいい？」
4-3 【E&Jラボ2024】第2回ここでしか聞けない！人事が気になる実践的事例トーク「LGBTQ+の推進施策で効果的な取り組みとは？」
4-4 ハットニャール博士の研究所 in 東京国際フォーラム ～アンコンシャスバイアスに気づく6つのとびら
4-5 E&Jフェス！未来のアタリマエ～ダイバーシティで次にいこう。 @丸の内
4-6 ～障がいのある子どもたちのための生演奏鑑賞会～ 「丸の内 Shall We コンサート」
4-7 みんなで投票！キラキラっとアートコンクール 一般審査会

ACT 5 コミュニケーション

5-1 ACT5情報発信拠点へのチェックイン
5-2 日経大丸有SDGsフェスティバル（5月開催）
5-3 日経大丸有SDGsフェスティバル（9月開催）
5-4 大丸有SDGs映画祭2024
第1回 くちづけ
第2回 君の根は。大地再生にいどむ人々
第3回 サラリーマン
第4回 ミスター・トイレ 世界のウン命を握る男
第5回 バービー
第6回 ワンダー 君は太陽
第7回 私は憎まない
第8回 LFG～モノ言うチャンピオンたち～
第9回 燃えるドレスを紡いで

その他

「のともっと プロジェクト」
「のともっと RESTAURANT FAIR TOKYO」

今年度サマリー

2024年度ACT5の総括と次年度に向けて

本年度のACT5は、草創期に芽吹かせたSDGs推進企画の幾つかを、幹として成長させつつ、中身は常に0スタートで新鮮さを失わない企画を展開してきました。後述するサステーブルやE＆J、SDGs映画祭等は、ダイナミックに中身を洗い替えながらこの街が育てた皆様のプロジェクトにも思えます。

今回、丸の内ポイントアプリへのACT5導入に伴って、昨年末1万人の登録者を超える母体となりました。環境や多様性、人権やWELL-BEINGを皆で体験しながら学び、生活の中で行動していくことで、社会や街の価値にしていこうという志に、万の心が集まったことは初期メンバーとしては万感の思いが湧き出ます。

今後のあるべき姿に向けて、ACT5が社会に与えるインパクトの測定を開始しましたが、次年度は更に新たな仲間を募り、共に街と社会の進化に向けて一層挑戦していきたいと思っています。ぜひ連携していきましょう！

大丸有SDGs ACT5実行委員会
運営委員長
大須賀 章記

協力企業数

詳細 28ページ

69社　新規連携先30社

延アクション参加者数

28,219人　5ヶ年累計 98,930人

延アクション数

54回　5ヶ年累計　268回

ポイント付与店舗・拠点数

75拠点

アプリユーザー数

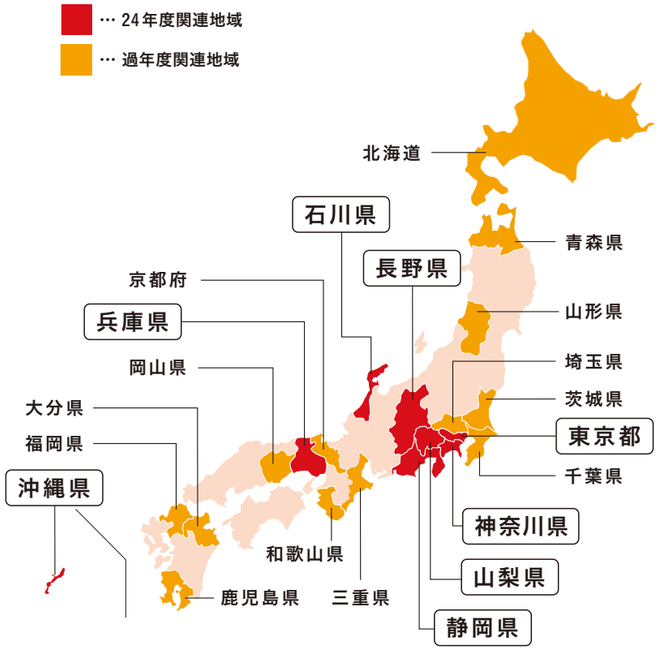
登録者数　※丸の内ポイントアプリに本登録し、ACT5キャンペーンにエントリーした人

10,771人

昨年度　4,160人（昨年度比＋6,611人）
※ACT5メンバーポイントアプリ登録者数

関連地域

8都道府県（これまでの関連地域合計　20都道府県）



ピックアップトピックス

PICK UP 1　SUSTABLE：オリオングループの循環型産業への挑戦

SUSTABLE2024vol.1ではオリオングループにご登壇いただきました。同グループの名護工場では2006年からゼロエミッションを達成し続けているなど、SDGsが提唱される前から行われてきた先進的な取り組みをご紹介いただき、沖縄における植物残渣を活用した農畜水産一体の循環型産業づくりから、食と循環経済（サーキュラーエコノミー）のつながりについて学びました。

詳細 8ページ

PICK UP 2　D&Iを一歩先に進める「E&Jフェス」を丸ビルで大規模に開催！

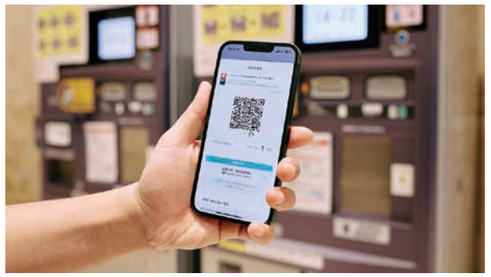
「D&Iの取り組みを一歩進める」「これからは誰もがEnjoy & Join（E&J）でD&Iを推進する」という思いを込め、誰もが楽しみながら未来の多様性について考えるイベント「E&Jフェス」を2日間にわたり開催。J-WAVE人気番組の公開生放送やトークショー、パラスポーツ体験、農福連携のキッチンカー等盛りだくさんのコンテンツに延べ5,800名の方々にご参加いただきました。

詳細 14ページ

PICK UP 3　丸の内ポイントアプリでACT5活動がより身近なものに

大丸有SDGs ACT5では、2021年度より独自の「ACT5メンバーポイント」を運営し、エリア内のSDGs活動を推進してまいりましたが、今年度より本機能を丸の内ポイントアプリへ統合しました。これにより、ユーザー数は昨年度より大幅に増加し、来街者やエリアで働く方々にとって、ACT5活動をより身近なものとして参加して頂けるようになりました。

詳細 18ページ



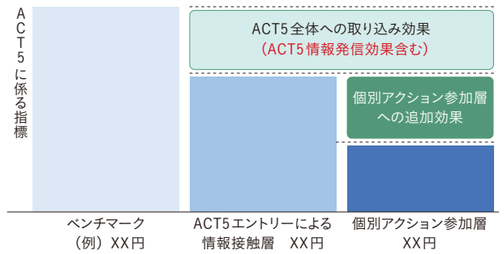
（出典）丸の内ポイントアプリ
https://www.marupoint.jp/article/category/news/vol4/

PICK UP 4　社会的インパクト評価・調査を初実施

ACT5活動の可視化をはかるため、社会的インパクト評価・調査を実施しました。近年、企業によるCSR活動や社会貢献プロジェクトの社会的インパクトの可視化が求められています。ACT5活動が社会にどんな影響を与えているのか？アプリアンケートを用いたポテンシャル推計及びACT3・4の一部活動について、ロジックモデル・KPI設定を行い、インパクト評価のフローを構築しました。

詳細 19ページ

ポテンシャル推計の模式図（コスト削減効果の場合）



アクション 1-2

食従事者と消費者をつなぐ「SUSTABLE（サステーブル）2024～未来を変えるひとくち～」

「作り手」、「使い手」そして「食べ手」が集い、未来の食を考える

「SUSTABLE（サステーブル）」は、持続可能性に配慮された食材（サステナブルフード）の普及を目指し、2021年度にスタートした試食つきセミナーです。消費者が「食」にまつわる社会課題を知り、その先の具体的なアクションに踏み出すきっかけを提供することを目的としています。

今年度もTOKYO TORCH常盤橋タワー3階のMY Shokudo Hall&Kitchenを会場とし、食の「作り手」である生産者やメーカー、「使い手」であるシェフ、そして「食べ手」である消費者が一つの会場に集い、サステナブルフードの美味しさを共有しながらそれぞれの立場で課題について考える場として、全3回のプログラムを展開しました。

食と環境の共生を目指す持続可能な取り組み

2024年度は「食と環境とのつながり」をテーマに、「1.食×資源循環（サーキュラーエコノミー）」、「2.食×脱炭素（カーボンニュートラル）」、「3.食×生物多様性（ネイチャーポジティブ）」という3つの視点から、私たちの生活に欠かせない存在である「食」と「環境」との繋がりについて学びました。

登壇者やシェフからは、「1日3回の食事のうち1回はサステナブル食材を選んでみてほしい」、「全ての命に思いやりを持つことが自然と環境に優しい行動につながると思います。まずは知り、周囲の人に伝えることが大切です」といった、私たち消費者に次のアクションを促す力強いメッセージが届けられました。

会場参加者からも「普段の生活の中で環境について考えながら選択していきたい」、「少しでも自分でできることから始めてみる」といった前向きな感想が多数寄せられました。

セミナーを通じて「おいしく」「楽しく」サステナビリティについて学び、五感をフルに活用して持続可能な未来への行動を促す場となりました。

アクション 1-5

地球に優しいアクションにつながる「サステナブル一汁一菜ランチフェア」

「SUSTABLE」と「丸の内シェフズクラブ」がコラボしたランチフェアを初開催

「SUSTABLE2024」で紹介したサステナブル食材を使用し、「丸の内シェフズクラブ」の4人のシェフが監修した「サステナブル一汁一菜ランチフェア」をTOKYO TORCH常盤橋タワー3階の MY Shokudo Hall&Kitchenにて初開催。気軽に楽しめる一汁一菜セットでありながら、生産者の想いを受け継ぎ、料理をつくるシェフたちのメッセージがぎゅっと詰まった1膳をお届けしました。このフェアを通じ、身近な食をきっかけに社会課題を学び、次のアクションにつながるきっかけを提供しました。

アクション 1-3

ジビエを食べて応援SDGs!「国産ジビエ料理フェア」

ジビエを通じてSDGsを学ぶ

丸ビル・新丸ビルなど大丸有エリアのレストラン約20店舗で「国産ジビエ料理フェア」を1か月限定で開催。一般社団法人日本ジビエ振興協会と連携し、国産ジビエを使用した特別メニューを展開しました。

ジビエは地方農山村被害防止の観点だけではなく、環境負荷の高い畜産の縮小や、新たなタンパク源として食料危機の解決策につながる可能性があり、SDGsを考える上で重要な役割を果たします。本フェアを通じて、ジビエを味わいながらSDGsを身近に感じるきっかけを提供しました。

2024年度のACT2の活動詳細はこちら

アクション 2-1～2-14

ACT5協力店舗との連携はより強固なものに

丸の内ポイントアプリとの連動により生まれた協力店舗との相乗効果

大丸有SDGs ACT5始動当初より、本活動の趣旨に賛同し協力してくださる大丸有エリアの店舗との連携は定着してきました。店舗でのマイボトル持参、サステナブルな商品の購入、衣類や雑貨のリペア、不要となった衣類や容器の回収など、今年度は丸の内ポイントアプリとの連動により、参加者・協力店舗双方にとって利用しやすくなり、今まで以上にSDGsアクションを身近なものとして行いやすくなりました。

パタゴニア東京丸の内店では、環境課題を考えるイベントを連携開催したり、店舗内でACT5の紹介展示をして頂いたり等、ACT5活動を様々な形でサポート頂きました。大丸有エリアの店舗からACT5活動を発信することにより、今まで以上に大丸有エリアのSDGs達成につながる活動の輪が拡がることを期待しています。

アクション 2-15

皇居外苑濠での泥と生きもの採取～濠プロジェクト～

皇居のお濠の貴重な水草に着目した取り組みである「濠プロジェクト」では、かつてお濠に生息し、現在は消失してしまった水草の系統保全と、泥に種子が眠っている可能性のある水草の復元に挑戦しています。今年度も大丸有ワーカーを対象に、皇居外苑と大丸有エリアの生物多様性について学び、考える機会として、実際にお濠に入って泥と生きものを採取し、観察するイベントを開催しました。

アクション 2-17

アイスクリームで気候変動に立ち向かう？生活者・企業人として私たち一人ひとりにできること

気候変動を抑制する様々な取り組みの一つとして、代替食の存在が徐々に浸透してきています。イベント当日は、環境負荷の低い100%プラントベースのアイスクリームを試食しながら、世界を取り巻く気候変動の現状と、畜産が気候変動に与える影響について学びながら、生活者として、また企業人として、それぞれの立場で今何かできるのかを考える場を提供しました。

アクション 2-19

カードで学ぶサーキュラーデザイン体験ワークショップ

サーキュラーエコノミー先進国として知られるオランダのマーストリヒト大学で開発されたサーキュラーデザイン戦略カード「Circularity DECK（サーキュラリティデッキ）」を活用し、「サーキュラーデザイン」の戦略や具体的手法について、LION（株）ご協力のもと、歯ブラシを題材にしながら楽しく学べる体験ワークショップを開催しました。

アクション 2-18

食農体験ラボ／とうもろこしもぎ取り体験＆マルシェ～皇居外苑濠の水草（菱）を堆肥にした有機野菜～

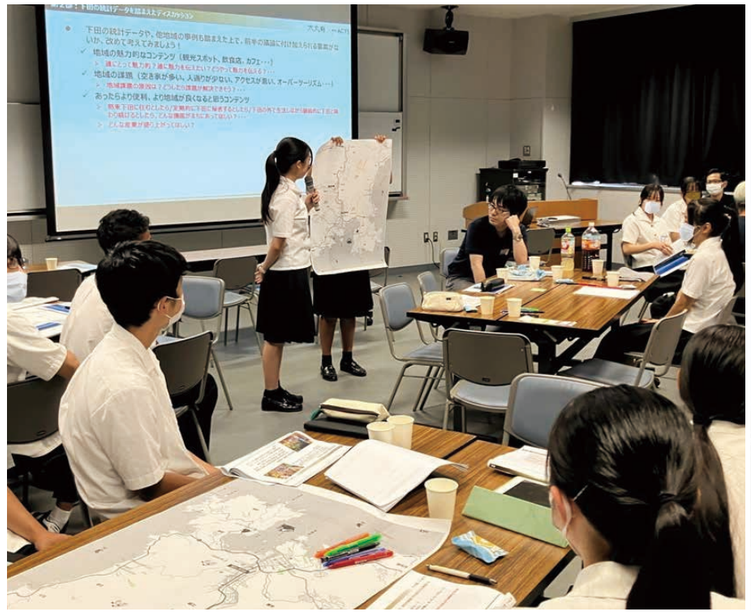
三菱地所グループでは、夏のお濠に繁茂して生態系に影響を及ぼす水草（菱）を刈り取り、たい肥の原料として活用しています。そのたい肥を使い八ヶ岳で育てられたとうもろこしのもぎ取り体験＆有機野菜のマルシェを、丸の内仲通り「Marunouchi Street Park 2024 Summer」にて開催しました。大人も子供も楽しみながら大丸有の資源循環を体感して頂きました。

アクション 2-20

空と土プロジェクト　山梨県日帰り稲刈り体験ツアー～サステナブルな農業を楽しむ～

三菱地所グループでは「都市と農山村がお互いに元気になる社会」を目指し、2008 年より自治体や現地NPO 法人と連携し、耕作放棄地を開墾・復田し、サステナブルな農法による酒米の生産に取り組んでいます。今年度はACT5との連携企画として、お米作りの集大成である稲刈り体験を通じ、普段の食卓に欠かせないお米がどのようにしてできるのかを考えるツアーを開催しました。

2024年度のACT3の活動詳細はこちら



アクション 3-2

【大丸有×伊豆下田】下田MIRAIカレッジプロジェクト

伊豆下田の将来を担う高校生と地元下田ワーカー、都市ワーカーが、地域課題解決に取り組む

昨年度に引き続き、伊豆下田と都市をつなぐブリッジ人材協力のもと、下田が抱える社会課題を探査し、都市ワーカーがどのように関わることができるかの可能性を模索し続けた「下田MIRAIカレッジプロジェクト」。今年度は、下田の将来を担う高校生や地域ワーカーと共に、多様な職種のプレゼンターとの交流、下田の魅力や課題についてディスカッションするワークショップや、社会課題解決の先行事例を高校生が実体験する東京視察会を実施しました。

これらの活動成果をベースに、アウトプット活動として、高校生が起点となって、地元発展のために「やってみたいこと」等を、地域ワーカー、都市ワーカー、行政に向けて発信。多様な人々を巻き込んで、下田地域の多目的スペース「With A Tree」を拠点として、社会課題解決策の社会実装に取り組んでいます。

高校生が、地元に目を向け、自ら考え行動するきっかけに。地域・都市ワーカーにとってもwell-being向上に繋がる。

高校生にとっては、地元に意識を向け自ら考え行動するきっかけが得られたと共に、様々なバックボーンを持つ都市ワーカーや地域ワーカーと交流することで“働く”ことに触れる体験となりました。一方、都市ワーカーや地域ワーカーにとっても、地域の社会課題について様々な人々との視点を共有し、解決へのアプローチを一緒に探る中で、各人のwell-being向上に繋がる企画となりました。

アクション 3-3

丸の内／仲通り周辺でプロギング ～走って健康に、拾ってエコに～

歩いたりジョギングしたりと体を動かしながら、街に落ちているごみを拾う、北欧生まれのSDGsスポーツ：プロギング。リピーターの参加も多く、参加者同士で「久しぶり！」と声を掛け合う姿も見られるようになりました。今年で４年目となるこのイベントは、徐々に認知度が高まり、毎回募集時には定員を大きく上回る応募がある人気イベントとして定着してきました。個人のご参加だけでなく、チームビルディングの一貫として、今年も多くの企業の方にご参加頂きました。

アクション 3-1 3-4

丸の内ラジオ体操 ランチタイムに丸の内仲通りでリフレッシュ

丸の内仲通りの風物詩となっている「丸の内ラジオ体操」を、今年度も初夏と秋に、各7回実施協力しました。全国ラジオ体操連盟の先生方からのワンポイントレッスンや、ティップネスさんによるウォーミングアップ企画などもあり、各回、200名を超える参加者の方々にとって、ランチタイム終わりのリフレッシュにぴったりな企画となりました。

アクション 3-5

ピンクリボン・セミナー　@丸ビル × 丸の内の街で、乳がん早期発見啓発 & ウォーキング・レッスン

日本対がん協会との共催セミナー。丸ビルホール＆カンファレンスの会場に専門医をお迎えし、乳がんを正しく知り、自分に合った適切なアクションを起こすための基礎知識を、大丸有エリア等で働く方々にお伝えしました。さらに、専門講師によるウォーキング・レッスンと屋外ウォーク体験を通じて、健康と運動とのつながりを、実感していただきました。

MY PINK ACTION
知ろう、自分と乳がんのこと。

2024年度のACT4の活動詳細はこちら

アクション 4-5

E&Jフェス！未来のアタリマエ ～ダイバーシティで次にいこう。＠丸の内

ラジオ公開生放送やドラァグクイーンショー、トークイベント等を通して多様な人が活躍できる社会を発信！

「E&J」は「D&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）」をアルファベット順にひとつ進めたもの。「D&Iの取り組みを一歩進める」「これからは誰もがEnjoy & Join（E&J）でD&Iを推進する」という思いを込め、誰もが楽しみながら、未来の多様性について考えるイベント「E&Jフェス」を2日間にわたり開催しました。本イベントでは、大丸有エリアを起点に就業者や来街者など誰もが気軽に楽しく参加し、体験できるコンテンツを提供することで、D&I をより身近に、日常の中で自分事として捉えてもらうきっかけとなることを目指し、今年度は丸ビル1階・マルキューブや仲通りを活用し広く展開しました。

1日目は「わたし（自分）らしく生きる」、2 日目は「ともに生きる」を大きなテーマとし、複数のメディアとも連携して開催。J-WAVE（81.3FM）の番組「ALL GOOD FRIDAY」の公開生放送や映画「バービー」映画上映、ブラインドラグビーやデフラグビーの体験コーナー、農福連携の生産物等の販売、アンコンシャスバイアスをテーマにした小学生向けワークショップ、LGBTQ＋に関する情報発信コーナー等、盛りだくさんの内容で開催しました。

ハイライトとして1日目夜には、豪華ゲストによるドラァグクイーンショーをマルキューブで初開催。吹き抜けの上階まで立ち見客で埋まるほどの反響をいただき、会場が一体となって盛り上がりました。

就業者だけでなく土曜日は親子連れの参加も多く、2日間を通して約5,800名もの多様な層の方々に参加いただきました。イベント参加者からは、とにかく楽しかった、色々な体験ができた、親子で学べる機会になったとの声が多く寄せられました。本イベントでの体験やさまざまな背景を持つ人々との交流を通じて、多様性への理解や誰もが生きやすく活躍できる社会を考える機会にしていただけました。

アクション 4-2 4-3

E&Jラボ2024「ここでしか聞けない！人事が気になる実践的事例トーク」

主に人事担当者を対象に実践事例を紹介するセミナーを開催。第1回は「障がい者に対する合理的配慮」、第2回は6月のPRIDE月間に合わせて「LGBTQ＋に関する施策」をテーマに、有識者や企業の方をゲストに迎え、基礎知識から実践事例についてお話しいただきました。当日は事例ワークショップも行い、実践事例を掘り下げながら各社の推進状況や取り組みのポイントを共有し、企業担当者の情報共有やネットワークの機会にもしていただけました。

アクション 4-6

丸の内 Shall Weコンサート ～障がいの有無を越え、子ども達とともに音楽を楽しみ、ともに成長する社会へ～

生の音楽に触れる機会として特別支援学校の生徒の皆様を、本格的ホールである丸ビルホールにご招待。ディズニーや映画のテーマなど親しみのある曲をお届けし、管楽器や鍵盤楽器の音の出る仕組みなどの紹介を行いました。大丸有エリアの就業者にも参加いただき、障がいの有無を超えて音楽や楽器の面白さを一緒に学び、触れ合う機会となりました。

アクション 4-4

ハットニャール博士の研究所 in 東京国際フォーラム～アンコンシャスバイアスに気づく6つのとびら

小学生を対象にアンコンシャスバイアスをテーマにしたイベントを8月に開催。事前申込が即満席となる程の反響で、当日は約300名が参加しました。イベントでは、企業・団体がアンコンシャスバイアスに気づく“6つのとびら”を提供。ACT5が提供した「超人のとびら」では、ゴールボール選手を講師に迎え、目隠しをしながら実際に競技を体験することで、「どうせ無理」といった自分に対する思い込みや、「相手の立場で考えてみる」という気づきの機会にしていただけました。

アクション 4-7

キラキラっとアートコンクール　一般審査会～作品を楽しみながら子どもたちの可能性を応援～

障がいのある子どもたちの可能性を応援したいという想いから、三菱地所が2002年に開始した絵画コンクール。一部の審査は、大丸有エリアの就業者や来街者による一般審査会として、ACT5と連携しながら開催されました。一次審査を通過した150作品が東京国際フォーラム ロビーギャラリーに並び、2日間で400名以上の方に絵を鑑賞しながら審査に参加いただきました。

アクション 5-2 5-3

日経大丸有SDGsフェス 開催報告

「日経大丸有SDGsフェス」は、学識経験者や企業経営者が集い、世界と日本におけるSDGsを取り巻く最新動向を共有し、持続可能な未来実現への道筋を探ることを目的としたイベントで、2024年度で5年目を迎えました。

本年度は5月と9月の10日間にわたり、丸ビルホールと日経ホールを会場に計12のイベントが開催されました。延べ132名の学識経験者や企業経営者が登壇し、多岐にわたる議論を展開。同時に日経チャンネルを活用したオンライン配信も実施され、ハイブリッド形式での開催となりました。

2024年度のテーマは「持続成長と未来世代のSDGs」。SDGsを経済の持続成長を支える基盤として未来世代に伝え、繋げるという趣旨のもと、5月のイベントを皮切りに様々な取り組みが行われました。以下に主なプログラムを紹介します。

日経SDGsフォーラムシンポジウム

元ユニリーバCEOのポール・ポルマン氏がオンライン講演を行い、企業が障害者を含む多様な人々を包摂する社会を実現するための責任と行動について語りました。ポルマン氏の講演は、多様性の重要性と企業の役割を改めて強調する内容で、参加者に大きなインパクトを与えました。

ポール・ポルマン 氏
ビジネスリーダー
運動家
「ネットポジティブ」共著者

NIKKEIブルーオーシャン・フォーラム

建築家の坂茂氏とグラフィックデザイナーの原研哉氏を迎え、大阪・関西万博で開催予定の「ブルーオーシャンパビリオン」の魅力について講演が行われました。本フォーラムでは、海洋保全と持続可能な利用に向けた最新の取り組みや技術が紹介され、参加者の意識向上が図られるとともに、産官学連携の重要性が強調されました。さらに、具体的な協力事例や2025年の万博に向けた取り組みが共有され、今後の活動への期待が一層高まりました。

原 研哉 氏
グラフィックデザイナー
日本デザインセンター
代表取締役社長
武蔵野美術大学教授

坂 茂 氏
建築家

モデレーター
更家 悠介 氏
ZERI JAPAN 理事長
サラヤ 代表取締役社長

ジェンダーギャップ会議

外務大臣の上川陽子氏が開会の挨拶を行い、ジェンダー平等の重要性と日本における取り組みについて述べました。また、エスエス製薬の元島陽子氏や信州大学の法学博士でコメンテーターの山口真由氏を迎え、「キャリア10年目の壁」についてのディスカッションが行われました。登壇者たちは、女性がキャリアの中で直面する課題とそれを乗り越えるための具体的な方法について議論し、多くの共感を集めました。

本フェスを通じて、SDGsに関連する多様な分野の専門家や実務者が一堂に会し、議論を深める貴重な機会が提供されました。イベント参加者の意識向上に加え、産官学連携や社会全体での取り組みが一層進展することが期待されます。

日経大丸有SDGsフェスの会場で丸の内ポイントを獲得！

COMMENT

大丸有SDGs ACT5　副委員長
内山 清行
日本経済新聞社 常務取締役

日経SDGsフェス2024を5月と9月にそれぞれ1週間、大丸有エリアで開催し、来場・オンラインでの参加総数は延べ1.5万人を超えました。ACT5とは「SDGs映画祭」、「サステーブル」などの告知に日本経済新聞を活用して集客連携を図り、大丸有ならではの立体的なアプローチで参加者に訴求しました。

6年目となる25年は日経グループの発信力とコンテンツ力を生かして「SDGs未来都市」としての大丸有エリアの価値向上に寄与し、これまで以上に大きなムーブメントを起こせるよう連携を強化していきます。

アクション 5-4

紛争やダイバーシティ、気候変動など「いま考えたい世界のコト」をテーマにした長編9作品を上映「大丸有SDGs映画祭2024」

多くの人に親しみのある映画を切り口に様々な社会課題の背景と向き合い、私たちにできることを考える

映画とトークを通じ、社会課題の渦中にいる人たちのリアルな一面に触れてもらう場を提供することを目的に、大丸有エリア内の様々な空間をミニシアターに仕立て、映画祭を開催しています。5年目となる本年はオープニング作品として、知的障がいのある娘を持つ父が、自分が支えられなくなった時の暮らしを案じ、娘と共にグループホームで暮らし始める日々を描いた『くちづけ』を上映し、映画コメンテーター／タレントのLiLiCoさん等をゲストに迎え、障がい者の就労支援やグループホーム運営の実態について考えました。

また、絶えず紛争が続く「ガザ地区」で3人の娘の命を奪われながらも憎しみではなく共存を訴え続けるパレスチナ人医師を追った『私は憎まない』や、日本のサラリーマン社会に焦点を当て、会社員の苦悩や悲哀を描いた『サラリーマン』の上映や、ACT4の「E＆Jフェス」と共催し、マルキューブにて『バービー』のをサテライト上映も実施しました。

クロージングでは、ケニアのゴミ山を通じてファッション産業の影響を痛感したデザイナーが、環境と共存するファッションの在り方を追求する『燃えるドレスを紡いで』を上映し、アーティストのコムアイさん等を迎え、「エシカル」という言葉が浸透していく先で、私たちが実践できることなどを考えました。エリアワーカーを中心にリピーターの方が半数を上回り、今年も約550名の皆さんにご参加いただけたことからも本映画祭の浸透と拡がりを感じる1年となりました。

COMMENT

大丸有SDGs映画祭2024 総合プロデューサー
井上 成
三菱地所株式会社エリアマネジメント企画部担当部長

本映画祭の信条は、多様で複雑な社会課題の敷居を下げ、アフタートークを通じ、多様な視点の共有と対話機会を提供することです。早いもので5年が経ちますが、日々より深刻かつ複雑化する課題の大きさに挫けそうになりながら頑張って続けています。

例えば、ガザの映画では、戦争体験のない我々が、憎悪渦巻く中東の対立に一体何が出来るのか？そうした悩みに向き合いつつ、でも、皆様が抱く矛盾や違和感や怒りがある限り“とことん寄り添う映画祭”を、今年も変わらずお届けしたいと思います。

丸の内ポイントアプリとの連動により、ACT5活動がより身近なものに

（出典）丸の内ポイントアプリ
https://www.marupoint.jp/article/category/news/vol4/

ACT5では、2024年度より、「丸の内ポイントアプリ」との連動を開始しました。

ACT5が主催するイベントや、ACT5協力店舗でのSDGsアクションに参加することにより、丸の内ポイントとクーポンが獲得でき、貯まったポイントやクーポンは大丸有エリア内の店舗で使用（消費）されるという域内循環を生んでいます。

来街者やエリアで働く方々にとって、日々のアクションがより身近な存在として定着し、街ぐるみで人々の行動や経済活動を通じたSDGs貢献を促進させることを目指しています。

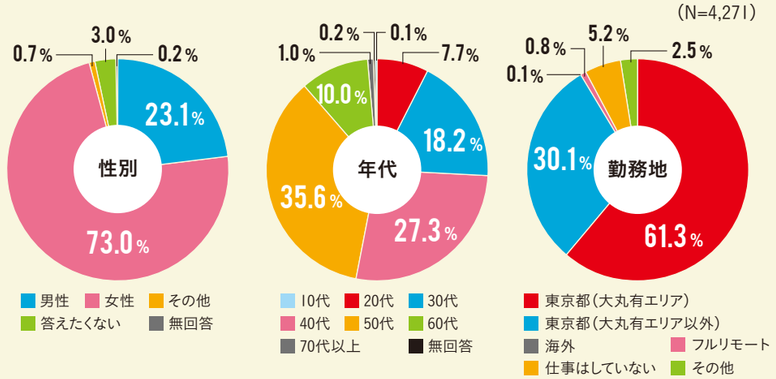
丸の内ポイントアプリとは

三菱地所が運営するポイントサービスです。丸の内・大手町・有楽町の27施設・600店舗以上でのショッピングやお食事で獲得・利用できる他、アプリ会員限定のお得な情報やイベント情報が満載！
ユーザー数：約30万人 ※2025年1月時点

ACT5キャンペーンエントリー者属性

※ACT5キャンペーンエントリー者10771名のうち、アンケートに回答した4271名の回答から集計

（N=4,271）



SDGsアクションの誘発と循環

ACT5キャンペーンへのエントリー数は10,771名となり、昨年度までのACT5メンバーポイントアプリの登録者数4,160名から大幅に増えました。SDGs活動参加により付与されたポイントは、SDGsに関連するお買い物や大丸有エリアの消費に貢献しています。

ACT5エントリー数	10,771名
ACT5アクション件数	28,219件
総ポイント付与数	4,322,210ポイント

丸の内ポイントアプリとの連携効果

多様なユーザーの意識醸成や行動誘発 大丸有就業者のみならず、来街者含め約30万人という大きな基盤を活用して情報発信することにより、これまでSDGsに興味関心がなかった層にもアプローチし、SDGsへの意識醸成やアクション誘発が期待できます。	**日常的なSDGsアクションの継続** 普段使いしているポイントが貯まることにより、SDGsアクションを気軽に行いやすくなり、また継続するモチベーションが生まれることで、それらを日常的に行うサイクルを創出すると考えられます。
ACT5協力店舗との連携強化 大丸有エリアの店舗で獲得・利用できるポイントアプリと連動することにより、店舗にとっても顧客の回遊性向上やポイント消費による購買が期待できることから、ACT5協力店舗とよりスムーズかつ強固な連携が生まれます。	**インパクト評価・調査への活用** アプリを通じた定期的なアンケート調査等により、各アクションの活動件数や参加者の行動変容等のデータを分析することで、ACT5活動の社会的意義を評価できる他、今後のACT5活動をより効果的に行うための指標として活用します。

インパクト評価の背景と目的

取組み5年目となる節目のタイミングにおいて、大丸有SDGs ACT5の社会的インパクト可視化を試行

大丸有SDGs ACT5では、SDGs達成に向けた様々なアクションを推進してきました。近年、特にインパクト投資分野において、企業によるCSR活動や社会貢献プロジェクトの社会的インパクトの可視化が求められていますが、インパクト評価に対して一般的にオーソライズされた測定手法は確立していないのが現状です。

そのため、2024年度はACT5全体、および個別アクションに対する評価手法の開発を試行しました。具体的には丸の内ポイントアプリを用いたACT5エントリー者対象のWebアンケート調査（有効回答4,271件）の実施、個別アクション（下田MIRAIカレッジPJ・E&Jラボ）を対象としたインパクト評価手法の検討を行い、その成果を取りまとめました。

ACT5の効果を可視化することで、関係者や社会に対してACT5の社会的意義を効果的に訴求することが可能になると考えられます。今後のACT5の活動拡大、およびACT5の目指す2030年のSDGs目標達成に向けて、今後もインパクト評価を継続的に取り組んでいくことが重要であると思料されます。

▼インパクト評価の成果

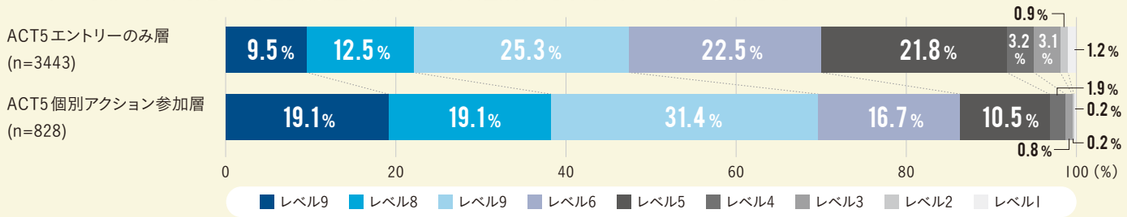
SDGsに関する意識・行動変容効果	ACT5にエントリーして関連情報に触れること、個別のアクションに参加することを通じて日常生活でのSDGsに対する意識・行動変容が生じている可能性が示唆されました。また、今年度は行動変容の定量的な効果についての試算ロジックを検討しました。
大丸有エリアへの愛着向上効果	ACT5のアクションに参加することを通じて、大丸有エリアへの愛着、勤続意識が向上し、関係人口の増加に貢献する可能性が示唆されました。
SDGsに関する意識・行動変容効果	ACT3（下田MIRAIカレッジPJ）、ACT4（E&Jラボ）を対象に社会課題マップ・ロジックモデルを用いた効果の可視化とKPIの設定を行いました。また、今年度はアンケートやインタビュー分析、広告価値換算、企業業績比較といった定量・定性分析を通じて個別アクションの効果検証も実施しました。

ACT5参加者の意識・行動変容

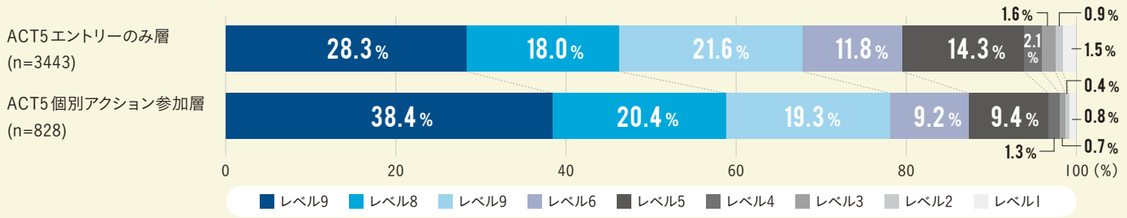
ACT5エントリー者を対象としたアンケート調査では、エントリーした時点でSDGs貢献意識や大丸有エリアへの愛着意識が高いことが分かりました（9段階評価で8・9を回答）。

また、その中でも個別アクションに参加した層はこれらの意識が特に高く、ACT5の活動が意識・行動変容の一助となっている可能性が示唆される結果となりました。

▼これからもACT5を含めた社会課題解決・SDGs達成に向けたアクションに参加したいか



▼大丸有エリアで働き続けたいか ＊現在大丸有エリア外で働いている場合は、「大丸有エリアで働いてみたいと思うかどうか」を回答



ACT5のポテンシャル推計

インパクトを定量化するにあたり、ACT5の効果には各アクション参加による直接的な効果に加え、大丸有を中心とした高感度層の取り込み効果や情報発信効果等も含まれると仮定して試算（ポテンシャル推計と総称）を行いました。

▼大丸有SDGs ACT5におけるインパクトの全体像

大丸有SDGs ACT5

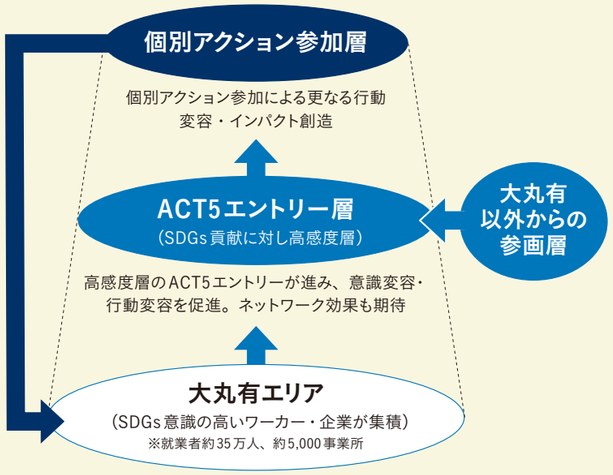
個別アクションを起点とした取り組み・情報発信を通じ、アクション参加層の行動変容促進からエントリー層への情報提供・高感度層の取り込みまで幅広く貢献

大丸有SDGs ACT5のインパクト

① 個別アクション参加による意識・行動変容
（参加効果）

② ACT5の情報に触れることによる意識・行動変容
（情報発信効果）

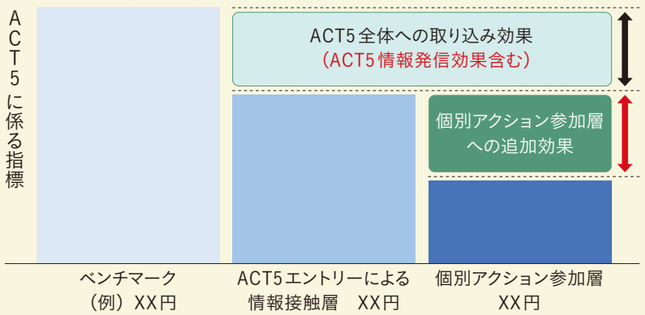
③ SDGs高感度層の取り込み
（取り込み効果）



ACT5と関連が深い指標について、公的統計等から取得可能かつ適切な値（全国平均等）をベンチマークとして設定し、ACT5エントリー層と個別アクション参加層について、アンケート結果から仮定を置いて指標値を算出しました。ベンチマークとの差分をそれぞれ意欲層の取り込み・接触効果（情報発信効果・取り込み効果）、ACT5個別アクションに参加したことによる追加効果（参加効果）とみなしてACT5の効果を推計しました。

▼ポテンシャル推計ロジック

ポテンシャル推計の模式図（コスト削減効果の場合）



効果＝一人あたり効果量×アンケート回答者数

取り込み・情報発信効果＊

参加効果＊＊

ACT5エントリー総数（10,782人）に引き延ばし → **各ACTの効果**

効果＝一人あたり効果量×個別アクション参加者数

※ACT5エントリー時点で社会課題解決・SDGs達成意識が高い層を取りこんでいることも効果に含むこと、指標算出において仮定の設定が含まれることに留意

▼ポテンシャル推計結果

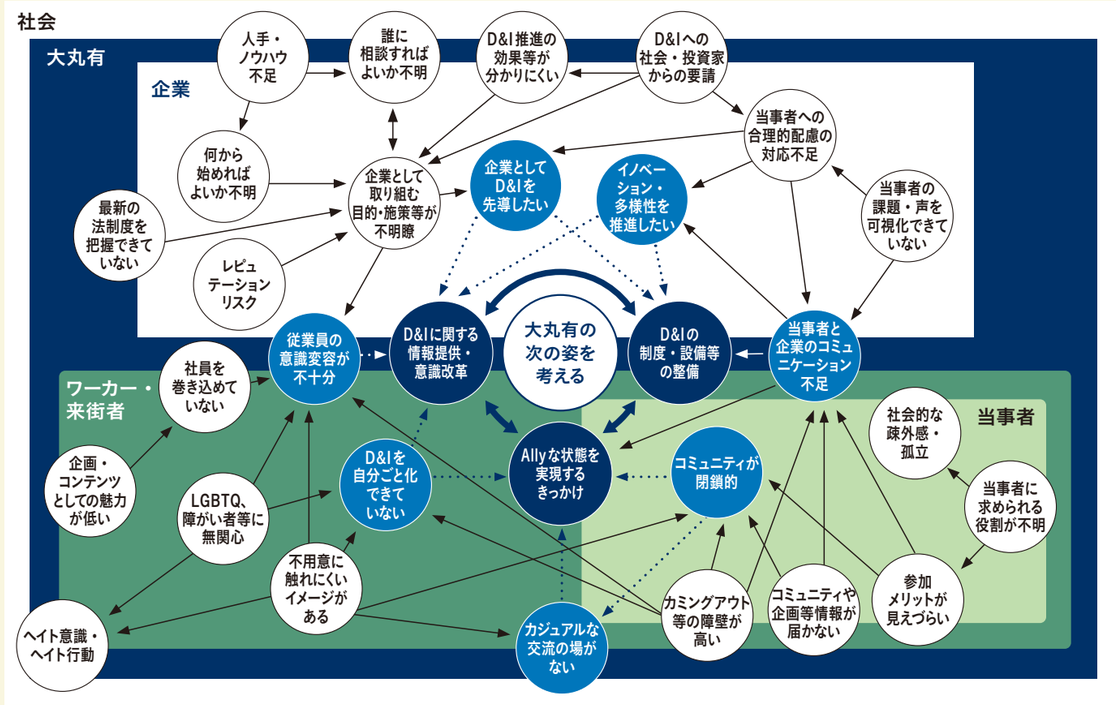
テーマ	指標	ポテンシャル推計値	
ACT 1（サステナブルフード）	ひとりあたり　フードロスによる年間経済損失額	取り込み・情報発信効果	▲7,235万円/年
		参加効果	▲172万円/年
ACT 2（環境）※ショッピングポイン含む	世帯あたり　年間CO2排出量	取り込み・情報発信効果	▲672t-CO2/年
		参加効果	▲27t-CO2/年
ACT 3（人と社会のWELL）	ひとりあたり　国民医療費	取り込み・情報発信効果	▲5,123万円/年
		参加効果	▲247万円/年
ACT 5（コミュニケーション）	ひとりあたり　年間ボランティア貢献額	取り込み・情報発信効果	829万円/年
		参加効果	108万円/年

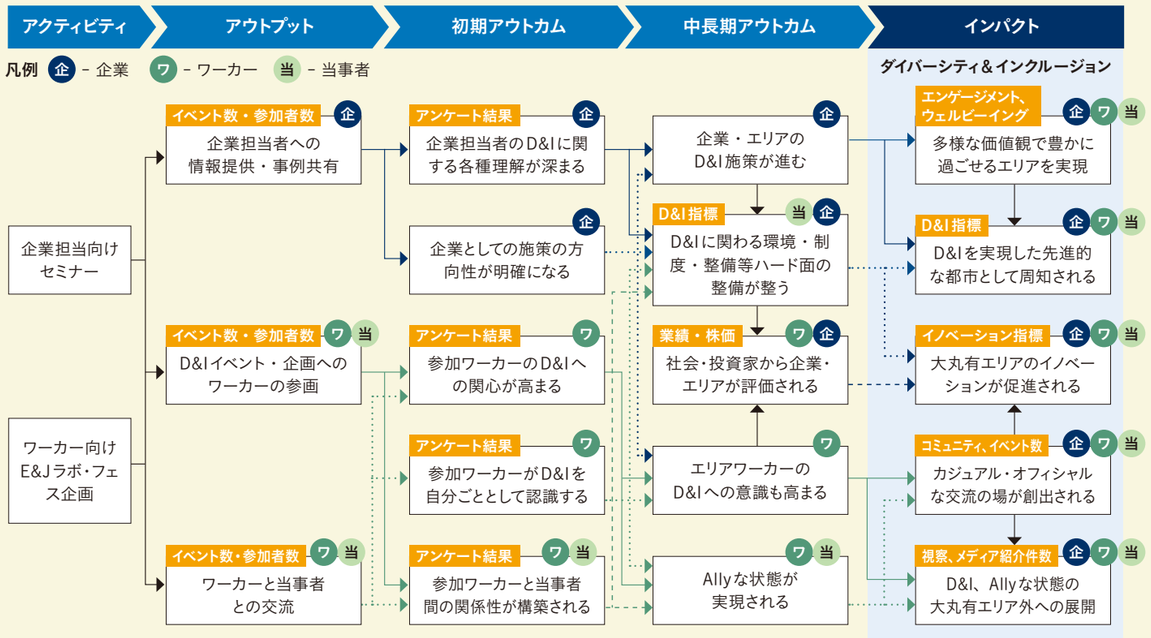
※ACT4については適切な指標の設定に向けて継続検討中

個別アクションのインパクト評価

ACT3（下田MIRAIカレッジPJ）・ACT4（E&J）について、関連する社会課題のマッピング（社会課題マップ）と社会課題解決ストーリーの可視化（ロジックモデル）・KPI設定を行い、インパクト評価のフローを構築しました。

▼社会課題マップ・ロジックモデル（E&J）





※ロジックモデルの一部アウトカムについては、KPIの設定が困難、かつ前後のアウトカム指標・インパクト指標を通じて達成状況が推定可能とみなしてKPIを設定していない

丸の内ポイントアプリ　ご協力店舗マップ

メディア掲載一覧

日本経済新聞 全国版 朝刊

副委員長企業の日本経済新聞社と連携し、プロジェクトへの想いや内容について全国版にて広告が掲載されました。
（2024年5月22日、9月3日）

（2024年9月3日付 日本経済新聞朝刊「日経大丸有SDGsフェス」広告企画より一部転載）

SUSTABEL2024

ハットニャール博士の研究所

大丸有SDGs映画祭2024

その他、ACT5のイベント告知として、SUSTABLE2024（6月25日掲載）、ハットニャール博士の研究所（7月3日掲載）、大丸有SDGs映画祭2024（9月24日掲載）に広告が掲載されました。

TV

「皇居外苑濠での泥と生きもの採取〜濠プロジェクト〜」の取り組みについて紹介されました。
テレビ東京「東京GOOD！TREASURE MAP」2024年10月1日放送

「E&Jフェス！未来のアタリマエ〜ダイバーシティで次にいこう。@丸の内」のイベントの様子について紹介されました。
テレビ東京「お仕事search！それってグッジョブ」2024年10月24日放送

新聞・ラジオ・WEB等

各テーマのプロジェクトが各種メディアに掲載されました。

●下田MIRAIカレッジプロジェクト／伊豆下田経済新聞（10月4日掲載）
●「E&Jフェス！未来のアタリマエ〜ダイバーシティで次にいこう。@丸の内」／J-WAVE告知（複数回）、雑誌OCEANS WEBレポート記事掲載（11月2日）

有識者からのコメント

開催5回目の節目での大丸有SDGs ACT5

日本を代表するビジネス街である大手町・丸の内・有楽町エリアを舞台に、SDGsについて考え、行動する街づくりイベントとして「大丸有SDGs ACT5」が立ち上がったのは、日本そして世界が新型コロナウイルス感染症の世界的大流行におののいていた2020年のことでした。コロナ禍の中での出発とあって、思うようにリアル開催を行うことができず、アウトリーチ活動に多くのご苦労があったことでしょう。様々な工夫を重ねて、5回目となった2024年度には、ポイントアプリを通じたアクティブな参加者の数を前年度から倍以上に増やすことに成功し、さらに環境、ダイバーシティ＆インクルージョンのACTにおいて新たな企画も導入し、幅を広げてきました。

イベント新企画の1つである「アイスクリームで気候変動に立ち向かう？　生活者・企業人として私たち一人ひとりにできること」（7月26日開催）に私も登壇し、お話しする機会をいただきました。地球温暖化に代表される気候変動は、気候災害や私たちの食と健康への影響など、私たちを取り巻く環境に大きな打撃を与えています。食料生産の中でも畜産業は、温室効果の大きなメタンを排出し、大量の水を必要とすることなどから、気候変動の要因の一つに挙げられています。畜産だけに頼らない代替食について、世界を取り巻く気候変動の現状と気候変動に影響を与える要因について学び、消費者・企業人としてできることを、プラントベースのアイスクリームを試食しながら考えてみよう、というイベントでした。金曜日の夕方、プラントベースのアイスクリームを開発し販売するベンチャー企業の代表も交え、気候変動の現在地、代替食の可能性と課題、そして消費者・企業人としてできることについてパネルディスカッションを行った上で試食したことで、フロアから活発に多くの質問が挙がりました。やはり、食はコミュニケーションを円滑化してくれます。

2024年は前年の「観測史上最も暑かった年」の記録を更新し、世界の平均気温は産業革命前よりも初めて1.5℃を超える上昇を記録してしまいました。国連広報センターとメディアが共同で推進する「1.5℃の約束」気候アクションキャンペーンの公共広告を、大丸有エリアのサイネージで流していただき、人々に気候変動への危機感と脱炭素型の行動変容を促すことに一役買っていただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

2030年をゴールイヤーとする持続可能な開発目標（SDGs）の進捗は、達成まであと5年という節目にあって、窮地にあります。国連の最新のSDGs報告書によると、17のゴールの下にある169のターゲットのうち、順調に推移しているものは17パーセントにしかすぎません。2024年9月の国連「未来サミット」で採択された「未来のための協定」は、協定全体としてSDGsの推進を下支えし、特に資金面での手当てについて、国際金融システムの改革も含め、コミットするものです。是非大丸有SDGs AC5の皆様には、取り組みのスケールアップを見据えながら、2025年度以降も強力に推進してくださることを心からお願い申し上げます。

国連広報センター所長
根本 かおる氏

東京大学法学部卒。テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。2013年8月より現職。

社会として真に循環する農業を生み出すために

黒田 祐介氏
たじま農業協同組合
総合企画室 経営戦略課

SUSTABLE2024のvol.3の中で、兵庫県但馬地域を代表する「但馬牛（たじまうし）」と「コウノトリ育むお米」をご紹介し、「御料理ほりうち」の堀内シェフに調理いただき、来場者の方にお召し上がりいただきました。

企画の中では、但馬牛はその飼育にかかる自然環境との循環、コウノトリ育むお米については絶滅したコウノトリの復活と共生についてご説明しましたが、どちらも農家の方々の大変な努力の上に成り立っています。

双方に共通するのは「循環」という考え方です。これを持続可能なものにするためには、私たち消費者の理解と、「一歩前に出る」勇気が必要だと思います。

生産者にとって経済的な循環、つまり、農業や畜産業で生計が立てられなくては良い取り組みも継続することができません。消費者ができることは、その付加価値に見合った適正な価格で「買って食べる」ことです。

但馬牛やコウノトリ育むお米に限らず、無農薬栽培など、一般的に「良い」とされる農法には、生産者の多大なる努力と手間がかかっています。手間に応じた価格を設定しようとすると、当然にその物自体は他と比べて高くなります。消費者がその価値を理解するだけではなく、10回に1回、100回に1回でも勇気を持って「買って食べる」ことが、社会として、持続可能な循環型農業の確立につながると考えています。食料安全保障の観点からも、国内農業を守ろうという機運は高まっていくと思います。JAとしても生産者支援とともに、消費者の幅広い理解醸成に取り組んでまいります。

私たちアラムコは、サウジアラビアに本社を置く世界有数の総合石油・ガス企業です。世界各地へのエネルギーの安定供給を通じて、経済の安定と成長を支えることを目指しております。

沖縄は、アラムコにとって特別な場所です。当社は、15年にわたり沖縄の海洋環境保全、再生活動を支援しています。2010年に日本政府との合意のもと、うるま市で原油タンクの貸与を受けて以来、深い絆を築いてきました。

その活動を都心でも広げようと、大丸有SDGs ACT5にアプローチさせていただきました。ACT5は、個人や企業の行動変容を促すユニークな仕組みを提供しており、次世代教育の場としても理想的でした。そこで環境テックベンチャー、イノカ様とともに、【海の未来を子供たちとつくる】サンゴの餌やり体験、実験教室「サンゴの好きを探し出せ！」と題し、子どもたちと共にサンゴの捕食行動に関する実験を行い、科学的な探究心を育む機会を提供いたしました。

気候変動で海水温が上昇し、サンゴは光合成だけでは生存が難しくなっています。子どもたちは実験を通じて、サンゴが環境変化に適応するための栄養源について学びました。この経験は、未来の海を守るために科学的な視点で考え、行動する力を育てます。

この美しい海を後世に残すために、アラムコはこれからも挑戦し続けます。私たちの努力が、次世代に豊かな自然を受け継ぐための礎となることを信じています。

美しい海を後世に残すために、私たちはこれからも挑戦しつづけます

石井 陽子氏
アラムコ・アジア・ジャパン株式会社
経営企画室
パブリック・リレーションズ

ACTを通じたネットワークを活かして、自社のDE&Iをより推進させていく

長谷川 卓弥氏
三菱マテリアル株式会社
人事労政室
ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン推進グループ

LGBTQ＋の方々への支援を担当することになり、社内での取り組みを検討していた頃、他社の具体的な取り組み事例を知りたいと思い、ACT4イベントに参加しました。その後もDE&I関連イベントに参加することで社員の行動変容を促進したいという思いから、情報を社内で共有したり、社員と共にE&Jパレードに参加する等行っています。イベントに参加したことで、当事者団体等とのネットワーを構築することもできました。今後もDE&Iに関連した入りやすいテーマのイベントや交流の機会を期待しています。

DE＆Iに本格的に取り組んでいく段階で、様々な取り組みに参画する為にE&Jイベントに参加しました。昨年度のパレードには執行パートナーも参加したことで、所内に向けてDE＆Iを推進するという強いメッセージを発信することができました。今年度はLGBTQ+施策をテーマとしたE&Jラボに登壇者として参加したことで、対外発信に加え、所内へのアピールとモチベーション向上に繋がりました。またイベントを通じて他社の成功例やリアルな悩みについて情報交換でき、社内施策へも反映できています。ACTを通じて他社との連携の機会が生まれることが最大の魅力だと思います。一社でできる企画には限界がある為、他社との交流イベントなど積極的に企画していただければと思います。

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業
中村 真希氏（※写真右）
ビジネスサポート部 シニアマネージャー（DE＆I推進）総合変革課
山野邉 亮郎氏（※写真左）
ビジネスサポート部　総合変革課

2023年度より「大丸有SDGs ACT5」と連携し、下田市で地域課題解決を目指したキャリア教育プログラムを開始し、2024年度も継続しています。この取り組みは「下田MIRAIカレッジプロジェクト」として第2期を迎え、有志の地元高校生の参加者は25名に拡大。学校側の協力体制も強化され、地域事業者や行政、市議会議員も積極的にワークショップに参加しています。

高校生たちは主体的に地域課題に向き合い、自ら次のアクションを提案・実行しています。発案した企画の実地調査や地域住民へのヒアリングを通じ、課題解決プランのブラッシュアップにも取り組んでいます。このプロセスを通じ、ACTメンバーは多様な知見を提供し、高校生が提案を形にするための伴走支援を行っています。

また、外部視点を取り入れたプロジェクトは、地域資源を活かした新たな発想を生み出し、地域の潜在力を再発見する機会となっています。高校生の主体的な行動は地域住民にも良い刺激を与え、共創型まちづくりの重要性が再認識されました。

今後は「部活動化」を目指し、学校と連携した新たな教育プログラムの導入を調整中です。この取り組みは地域の持続可能な自立体制の構築を支え、若者たちの成長を後押ししています。ACTとの共創を通じ、地域が共に歩む未来への期待が高まっています。

高校生が描く未来の下田 — ACTと共に創る地域課題解決の新たな二歩目

梅田 直樹氏
合同会社 Local is beat
代表

大丸有SDGs ACT5実行委員会

三菱地所
農林中央金庫 NORINCHUKIN
NIKKEI
日経BP
大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくり協議会
Ligare 大丸有エリアマネジメント協会 OMY Area Management Association
ECOZZERIA
街と歩む、街を支える。 丸の内熱供給株式会社
TOKYO INTERNATIONAL FORUM 東京国際フォーラム

協賛パートナー（五十音順）

aramco
Orion
Koyou Rentia Creative Rental Company
Coca-Cola BOTTLERS JAPAN INC.
SUNTORY
Story inc.
Be FOR THE EARTH

協力パートナー（五十音順）

アカルク
Artbility
アナザー・ジャパン
ARCOBALENO
一般社団法人 アンコンシャスバイアス研究所 -Unconscious Bias Laboratory-
えがおつなげて
eclipseco
ÉCHIRÉ depuis 1894 MAISON DU BEURRE
ete bijoux
OCEANS
Omtrak
鎌倉珈琲探偵舎 KAMAKURA COFFEE
good mornings
UNHCR The UN Refugee Agency
JAPAN FOR UNHCR 難民を守る。難民を支える。 国連UNHCR協会
Goldwin
CosmeKitchen BEAUTY
COSMETICS AND MEDICAL
THE NORTH FACE
3×3 Lab Future
J-WAVE 81.3FM
上智学院 SOPHIA SCHOOL CORPORATION
Startline
STARBUCKS
ZERO HALLIBURTON
TULLY'S COFFEE
dari K
ZEISS
NEAL'S YARD REMEDIES
NINO
NACS-J 日本自然保護協会
一般社団法人 日本ジビエ振興協会 Japan Gibier Promotion Association
公益財団法人 日本対がん協会
ノウフク 日本農福連携協会
NEMOHAMO
TOUR 株式会社農協観光
Harch
HAKUHODO 株式会社 北陸博報堂
patagonia
BEAMS
HIRAKU
FARMAN
FUJITSU
Forbes JAPAN
Plogging Japan
My Shokudo Hall&Kitchen
丸の内5丁目 PROJECT
Marunouchi Happ. Stand & Gallery
紫野 和久傳
今日を愛する。 LION
LA MAISON DU CHOCOLAT PARIS
local is beat LLC.
RUCHE

後援：国連広報センター　制作：大丸有SDGs ACT5実行委員会　https://act-5.jp/　2025年3月発行

FSC www.fsc.org ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C003395